



高 附属だより

第5号

発行
筑波大学附属高等学校
桐陰向上会

編集
121回生理事
萩原 嶋 須 藤
島 田 筆 谷 高 橋



校長

茂 呂 雄 二

「夢を語り、未来を信頼する」

附属高校校長を拝命して3年目となります。二年間様々な経験をしました。が、とくに昨年は震災と原発事故という社会経済的にもまた社会不安という意味でも大きな出来事にあいました。

しかし、このような不安の中にあっても教育を中断することなく、さらによりよいものを目指して先に進めていかなくてはなりません。そのためには、生徒、保護者の皆様、教職員が力を合わせて考え、そして実行することが必要です。未来を思い、その実現のために力を合わせることは重要です。

ところで最近大学のプロジェクトの一環で小学中学年の子どもたちがどのように未来を想像し、どのような感情

や、知識をもっているのか調べています。楽しみにしたり逆に不安を感じたり、環境問題を知っているのか、解決策を考えたりするのか、調べています。

三月の半ばに山形庄内で、次いで北京市で小学生にインタビューをしました。まだ詳しく分析していませんし、サンプルも少ないのですが、多くの観点で、中のデータは致しているといえそうです。活発に夢について語る子どもたちは、

楽しみも感じているし、同時に未来をすこし心配もしている子どもたちでした。これは、日中でよく似ています。楽しみと心配の両方の感情をもちながら、両者のバランスのうえに未来を想像しているのでしょうか。このバランスのとれたタイプの子どもたちは、留学の夢を語ることが多いように思えました。夢のためならどこにでも行ける、そしてどこにいても自分であり続けられる。夢を語り合うことは、まさに未来を信頼することであり、それは自分自身の自主・自律・自由を信頼することなのではないでしょうか。

「附属の伝統と未来」



向上会・後援会会長

江 上 いずみ

震災復興と低迷する経済の回復を願う日本社会において、今最も手を休めてならないのは次世代のこの国を支える子どもたちの教育です。全国の附属学校はその指南役として今こそ本領を発揮すべき時であり、向上会・後援会も先生方、桐陰同窓会となお一層の連携を深め、会館設立をはじめとする様々な目標に向かって邁進する必要があります。

私自身、八十八回の卒業生として附属を愛する者の一人ですが、附属の心ともいうべき「自主・自律・自由」の精神は熱心にご教授くださる先生方のお陰で今も変わらず生徒一人一人に受け継がれています。同様に保護者の皆様の熱意ある学校への協力態勢もまた附属の伝統として永く受け継がれ、一昨年から本格的に始動しているグリーンボランティアは今や四十名にもなりました。

この附属の伝統に感謝しながら母校の一助となるべく力を尽くしていきたいと思っております。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

入学式に思う

入学 おめでとう



満開の桜の下、二百四十七人の新入生が「附属高校」の門をくぐりました。粛々と進む入学式の中で、在校生を代表して生徒会長が発した歓迎のことは心が残りました。私も附属の知について日頃考えることがあるのですが、生徒会長の歓迎のことばに卒業生という人材とその人材を日々育てる教員に対する尊敬と人材に育ちつつある自負を感じました。入学式で並んでいた生徒たちにも十分に響き渡ったと信じていますが、担任六人には心地よい春の風のような、自分たちを肯定してくれる応援歌のようにも感じさせてくれるものでした。生徒会長が新入生のロールモデルになったことを実感させてくれるスピーチでした。

(貴志 泉)

一学年担任団の一言

●一年一組 担任

大澤幾子 (数学科)

希望と夢がいっぱいつまった風船を持って本校に入学されたことと思います。その風船が小さくならないように、手を離して見失うことのないように、充実した高校生活で、益々大きく膨らませて下さい。期待しています。

●一年二組 担任

鈴木 亨 (理科・物理)

情報化社会の中にかえって現代人はマニュアルに支配されているように思えます。目先の損得を考えのではなく、あらゆることを自分の糧にしてほしいと思います。新生入生に望みたいことは「知的に欲張りになること」です。

●一年三組 担任

松下朝子 (理科・地学)

入学おめでとございます。三年間はあつという間。後悔のないよう、勉強も部活も行事も遊びも皆、精一杯取り組んでみて下さい。きっと一生の財産となる素敵な「時間」と「仲間」を得ることができると思います。

●一年四組 担任

橘 俊一 (外国語科・英語)

附属高校在学中に、

1. 本をたくさん読みましょう、
2. 友達からたくさん学びましょう、
3. たくさん悔しい思いをしましょう、
4. 失敗から学ぶ習慣を身につけましょう、
5. 健康に注意しましょう、そして、
6. 人の話はよく聞きましょう。

●一年五組 担任

貴志 泉 (保健体育科)

人を測るものさしって勉強ができるとかスポーツができるものさしのこと？次のものさしでも測ってみたいなお笑い度数、天然ほけ度数、知的好奇心度数、他者を助ける援助行動度数とか。皮肉屋度数も。色んな生徒が集まってクラスなんだよね。

●一年六組 担任

日下部公昭 (地理歴史科・世界史)

高校生活をどう過ごすか、と考えていることでしょうか。「待ち」の姿勢では何も生まれません。有意義に過ごすためには、積極的に打って出ることです。そうした姿勢で過ごす皆さんを、精一杯支援していきたいと思っています。

人事

退任のご挨拶

渡辺雅之 (国語科)

退任の挨拶ということで、本校での教師生活を振り返ってみます。

都立高校に十三年間在職後、平成元年四月に本校に赴任してきました。天下に名だたる名門校に赴任することということで、初めはかなり緊張し、教壇で立ち往生する夢を見たりしたのが、今では懐かしく思い出されます。

爾来二十三年間、本校にお世話になったわけですが、長いようであつという間だったというのが偽らざる感覚です。その間、三度担任を持ちました。一〇・二・一〇・八・一一四回生のいずれも六組でした。実は、この三月にこの三クラスが合同で、私の「退任を祝う会」を催してくれ、合計で七十名近くが参加してくれました。教師として現役の生徒を教える喜びも勿論ですが、卒業生がクラス会を開いてくれて、成長した姿をみることも大きな喜びです。

最終講義として漢文の授業をし、その後宴会となりましたが、時間の経つのを忘れるほど楽しく、まさに教師冥利に尽きる一日でした。

また、職場としても、素晴らしい同僚に恵まれ、幸せな附属生活だったと感謝申し上げます。

着任のご挨拶

大内康宏 (国語科)

四月から国語科の教諭として、附属高校で働くことになりました。私自身も附属の卒業生であり、母校で仕事ができることを大変嬉しく思います。

さて、自分の高校時代を思い起こしてみますと、地元の公立中学から附属高校に入学した私は、附属の自由な雰囲気や、附属中学出身の友人達の常識に縛られない豊かな発想力に、少なからずカルチャー・ショックを受けた記憶があります。先生方もみな個性豊かで、「学校の先生」というものに対するイメージが大きく変わりました。

そのような中で、勉強に、部活動に、行事に、大変充実した三年間を過ごしました。また、卒業後も女子バスケットボール部のコーチとして、あるいは蓼科生活の付き添いOBとして、他ではできない、貴重な経験をさせてもらいました。教育実習も附属でお世話になりましたし、卒業してからも、非常に多くのことを附属で学びました。

これから附属で働くにあたり、今の生徒達にも、多くの経験を通して様々なことを学び、充実した高校生活を送ってもらいたいと願っています。そして教員として、それをしっかりサポートしていきたいと思っています。

昨年度の活動から

一学年の活動

高校一年は、様々な面での「自律」を促すとても大切な時です。担任団が三年間の流れと目標を立てて入学を心待ちにしていた昨年の三月、思いもよらぬ震災がおきました。入学準備会もできないまま入学式を迎えましたが、教員の心配をよそに生徒達は落ち着いて高校生活のスタートを切りました。色々な事を考えさせられた災害。震災から学んだ生徒達の「自律」を感じました。

クラス作りから学年での仲間作り、そして未来を見つめる学習へと、第一学年は、H R活動や行事を通じて歩を進めてきました。どの行事にも意味と目標があり、本校のモットーである「自主・自律・自由」を念頭に組み立てられています。中でも、夏休みの「蓼科生活」、十一月の「校外学習」はクラスから学年へと広がっていく過程がはつきりと見えた行事でした。記録は冊子にして配布致しました。現在は、五月に行われる筑波・猿島合宿に向けて委員会中心に準備中です。今年は第

二学年として、様々な場面での学校全体を見渡す活動が要求されます。広い視野を持った活躍を期待しています。

(那須和子)

■蓼科生活

クラスの基盤作りに欠かせない三泊四日の「蓼科生活」が、七月二十日(八月七日にかけて行われました。今回の基本方針は「暮らしづくり クラスづくり」。自然溢れる場所での、質素ながらも充実した生活が出来るこの行



事は、本校に長く続く貴重な行事のひとつです。天候に左右されながらも、全クラスに共通したメニューである、蓼科山登山・小遠足・キャンプファイヤー・飯盒炊爨をすべて実行できたことは何よりでした。各クラスの委員を中心として、クラスごとの個性溢れる内容も加味され楽しい合宿となりました。蓼科に魅せられて、その後、秋・冬・春と訪れている生徒もいます。

(那須和子)

■校外学習

「伝えよう、ニッポン!」をテーマに、一年次の校外学習が十一月二十五日、五・六名のグループ活動の形で行われました。「海外から高校生が訪ねてきた」という設定で、一日使った日本を伝える小旅行です。企画・運営にあたった校外学習委員会は、クラスの枠を超えて組織された、はじめての学年委員会です。委員はみな、一から行事を作り上げていく難しさとともに、やりがいを感じたことでしょう。

グループ活動の成果はクラスごとの発表会で披露されました。さらに十二月六日には、学年全体で発表会が開かれ、六組三班が最優秀班に選ばれました。班長の富永秀俊君は、「自然とともに生きるくらしを学ぶために鎌倉に行ってきました。校外学習当日も発表



会も、事前にしっかり準備できてよかったです。ここで学んだことを日々の生活に生かしていきたいです」と語ってくれました。

(中塚義実)

現在、二年
年では五月に
行われる学年
合宿の準備を
進めていま
す。スローガ
ンとして「仲
間とともに未
来を創造（想
像）する」を
掲げ、クラス
の垣根を超え
た仲間づくりと、生徒一人一人の自分
探し（進路選択）を目標として活動し
ています。



一月末には各界で活躍している本校
卒業生十一名を講師として招き、「未
来の職業講演会」を実施しました。現
在の職業を選択した経緯や、そのやり
がいについて、複数の先輩から話をし
てもらったことによって、生徒たちは大
いに刺激を受けたようでした。

学年合宿本番では、筑波大学の研究
室訪問、ロボットスーツの開発で有名
な山海教授による講演、小グループに
分かれての職場訪問等を行う予定です。
委員会を中心にしっかりと準備をして、
生徒一人一人の進路選択につながるよ
うな、よい合宿となることを願ってい
ます。

（山田研也）

二学年の活動

いま思い返す、修学旅行

121回 修学旅行委員長 文入 悠

修学旅行と聞いて心に蘇るもの、
それは何であろう。

私が修学旅行を通して自分自身に
言い聞かせてきた言葉がある。「断じ
て行えば鬼神もこれを避く」である。
修学旅行中、気候に左右されること
が多かったためか、私にはそれらの
裏に鬼神が潜んでいて、私達の行く
手を阻んでいるように思えてならな
かった。

修学旅行前日までの天気予報の雨
マークは、初日朝に消え去り、鬼神
も失せた。しかし那覇空港に着いた



瞬間に再び私達の前に立ちはだかる
のである。そう、フェリー欠航により、
初日に渡嘉敷島に渡るという予定は
急遽、夕食の時間まで班ごとに行動、
というものに替わったのだ。

しかしここで鬼神の独壇場を許さ
なかったのが、百二十一回生の強さ
である。むしろこのような極地に置
かれてこそ、本領が発揮されたと言っ
ていい。

班ごとに行動、とは言われたもの
の、多くの人間にとっては初めて降り
立った地で、右も左もわからなかつ
た、と言っても過言ではない。その
ような状況で、約六時間をいかに自
分たちの手で彩るか、と問われたのだ。
各班の出した答えは様々であった。

ある班は、市街に出てガラス工芸な
どの体験学習をし、ある班は歴史的
な建造物が残る街をサイクリングし、
またある班は博物館にて沖縄につい
て知識、理解を深めると、挙げれば
きりが無い。そのどれもこれもが独
創的であり、各班が臨機応変な対応
によって修学旅行の一品を創
り上げたのだとわかる。これこそが、
私達の強さであった。そして、そん
な様々な感想を口にする皆の顔を見
ると、「ああ、この強さに圧倒され鬼
神も身を隠したのだな」と思わずに
はいられなかった。だから、フェリー

欠航は災難ではなく、抜き打ち班行
動の「きっかけ」として、立派に修
学旅行の一品を成し得たのであ
る。



この強さにますます心打たれたの
は、二日目であった。二日目は、初
日の予定のずれも影響し、さらには、
朝になるまで、その日にフェリーが
出航するかどうか分からず、私達
はより臨機応変かつ迅速な対応を求
められた。しかしそんな困難をもの
とせずに、ほぼ全てのイベントを
やりきることができたのだから、こ
れは今思い返しても、凄いことだっ
たと思う。

ほぼ全て、としたのにはわけがあ
る。天体観測、これについてはあい
にくの天候で実施できなかったのだ。

しかし代わりに私は、沖縄本島の夜景を堪能した。まだ、五日間の行程中の二日目。はたから見れば、序盤に思われるだろうが、実際には、この二日間は、ただの二日間ではなかった。かなり重い、それこそ五日間に値するくらいの重みを持った二日間であった。だからこそ、その灯りは私たちの心をも照らし、あらゆる不安や疲労を洗い流し、そして同時に、残り三日間に向けて奮い立たせてくれた。

そしてここからついに、鬼神は私達に味方してくれるようになる。三日目から五日目にかけては、天候に悩まされることもなく、私は思う存分に修学旅行を突き進むことができた。

このようにして五日間、私は突き進み続けた。



しかし、私が突き進めたのは、そのレールを敷いて下さった、旅行会社の方々、先生方のご尽力があったからこそである。私は、初日夜の、先生方の顔を忘れられない。疲労困憊で崩れそうになるのを、緊張の糸が引きとめていた。また、旅行会社の方々が、どれだけ苦労し、急遽二百人以上を収容できるホテルを即日予約したのか、想像もつかない。

これらの、いわば修学旅行の陰の部分、あまり露わにされる機会のないものであり、また実際、私達がそれを意識する機会も少ない。しかし、必ずや心の片隅にとどめておく必要がある。このように支えられてこそ、私が「断じて行」いえたのであり、そこでの強い力によって、「鬼神もこれを避」けたのである。この修学旅行にはあらゆる事柄、人、その人たちの尽力が絡み合っていたということ、決して生徒たちだけのものではなかったということを忘れてはいけない。だからこそ、強い力を生みだしたのである。一人なら、そんなに強くない。二人なら、少し強くなるだけである。しかしそうではない、何百人、その幾多の力が互いに連鎖し合うことで、どんなものにも屈しない、強い力を生み出すことができるのである。



この修学旅行で感じた「力」は、今でも時々私の心を励ます。それは皆にも等しく言えることではないだろうか。この先、高校生活、いやさらにその後もどんな困難に突き当たるか計り知れない。しかしそんなとき私はまた、この「力」を思い返すのだろう。

こうして、修学旅行、高校生活の一ピースは、ただの楽しかった思い出にとどまらず、生を持ち、色を持ち、私達の人生に生きてくるのだ。彩りを与えてくれるのだ。

だからいま、修学旅行を思い、どんな思い出が蘇るよりも先に、笑みがこぼれてしまう。

三学年の活動

第三学年には修学旅行のような大きな行事はありませんが、高校生活最後の行事となるので、どれも思いを込めて取り組んでいました。院戦では男子テニス部や馬術部が久しぶりに勝利し、どのクラブも熱戦を展開しました。

桐陰祭では全クラスが食販で参加しました。二日間の売上高が最高だった一組が食販グランプリ、夏休み中から積極的に装飾に取り組んだ四組が装飾グランプリを受賞しました。

後期初めのスポーツ大会では、一組が学年優勝と総合優勝の二冠を達成しました。十一月末には、クラス毎に遠足を計画し、楽しい一日を過ごしました。この学年では三年目にして初めて、どの行事も天候に恵まれました。



(大野昭次)

学校行事

院

戦

(対学習院
総合定期戦)

学習院高等科・女子高等科との総合定期戦「院戦」は、毎年六月第一土曜日に、三校持ち回りで開かれます。昨年は六月四日、女子高等科が当番校でした。

高体連等の公式戦とともに、多くの運動部が目標とするこの行事は、日ごろの成果をクラスメートや保護者、卒業生に披露する場であり、三年生にとっては活動の集大成でもあります。総合優勝は学習院に譲ったものの、各会場の熱気は、高校生ならではのものでした。



チアリーダーによる華やかな応援風景

東日本大震災の影響で準備の遅れが心配されましたが、三校の生徒で構成された委員会がよく動き、好天にも恵まれ、気持ちのよい大

会だったと思います。

本年度は六月五日(土)開催で、附属が当番校です。どうぞお楽しみください。

(中塚義実)

桐

陰

祭

九月十・十一日に五十五回目となる

桐陰祭が行われました。校舎の二・三階には一・二年生の各クラスや文化系クラブによる展示、一階と前庭には三年生の各クラスによる食販の店が並び、どちらも盛況となりました。一年生の各クラスは恒例となった合唱にも取り組みました。天候に恵まれたこともあり、入場者数は前年比約千人増の四〇六二人を記録、外來の方々による投票の結果、グランプリは室内ジェットコースターの二年一組が獲得しました。なお食販団体の売上の一部およびバザーの売上全額を東日本大震災義援金として寄付させていただきました。

(藤本和哉)



スポーツ大会

本校のスポーツ大会は、クラス対抗の球技三種目(サッカー・バスケット・バレー)と、学年種目(二年とんとんで、二年むかで、三年大縄)の二つの部門があり、両方の得点を合計した「総合優勝」が決定されます。今年度の総合優勝は、一年生は四組、二年生は六組、三年生は一組でした。委員長の高野薫子さんの指揮で、委員みんなで二年前から準備に取り掛かり、生徒主体で作り上げる、まさに附属らしい行事で大いに盛り上がりました。



(征矢範子)

開成レース

第83回開成レースが平成二十三年四月十六日に開催されました。荒れ模様の天気でしたが、入学直後の一年生やボート部OB、応援団、父兄が、附属クルーに熱い声援をおくりました。スタートの号砲とともに飛び出したのは開成。二五〇mまでに一艇身半の差がつき、必死に追いかけるものの、最後は半挺身差で敗北してしまいました。

対戦成績

はこれで42勝41敗。この悔しさを

バネに、来年は何としても雪辱を果たしてほしいと思います。

(藤原宏之)

湘南戦

第64回附属・湘南サッカー定期戦が、三月二十日、快晴の附属高校グラウンドで行われました。昨年は震災の影響で中止となった伝統の一戦は、10時から若手OB戦に続いて12時から行われました。試合は、三月二十四日からのヨーロッパ遠征をひかえる湘南に圧倒され、0-5

の完敗でした。

通算成績は附属の21勝31敗12分となりました。試合後は附属・湘南が教室に集まり、サッカー部の保護者が調理教室で作ってくれた豚汁とともに食し、交流を深めました。



両校の先発選手で記念撮影

(中塚義実)



部活動から

サッカー部

全国高校サッカー選手権大会は正月の大会としておなじみですが、

三二〇校余が参加する東京都予選は真夏に行われます。

戦前から全国レベルの強豪校であった本校蹴球部も近年は苦戦が続いています。昨夏は三名の三年生を軸にチームがよくまとまり、二十二年

ぶりに地区大会を突破、都大会に進むことができました。都大会での勝ち上がりはかきませんでしたが、次こそはと、部員一同張り切っています。

蹴球部は二〇一四年に創部九〇周年を迎えます。いまでは女子蹴球部、フットサル部、サッカー部の三部門が多様な活動を展開しています。昨年四月三日に「チャリティ・フットボールフェスタ」と称するOB戦を開き、今年三月三十一日には、豊島



試合前の握手。都大会会場は人工芝です

区のNPOと協力して宮城県南三陸町立歌津中学サッカー部をお招きし、本校グラウンドで交流イベントを開きました。蹴球部三部門では今後とも、現役・卒業生ともに仲間の輪を広げ、サッカーを通して少しでも社会に貢献できる人材を育てて参りたいと思います。

(中塚義実)

T C A

T C A (プログラミングの学習やソフトウェア開発を中心として活動している同好会) に所属する小関健太郎君と古川渉太君(121回生)が、二〇一一年十一月五日に会津大学で開催されたパソコン甲子園2011プログラミング部門本戦にて、矢沢久雄賞(審査員特別賞)を受賞しました。また小関君は二〇一二年二月



十二日に行われた日本情報オリンピック本選でも優秀賞を獲得しており、今後の活躍が期待されます。

(速水高志)

附属生の活動実績

●東京都総合体育大会 弓道女子個人

第三位 山口国体参加

熊井 恭子さん (120回)

●二〇一一全国物理チャレンジ

奨励賞 笹森 瞳さん (120回)

●第五十回全国高等学校生徒

英作文コンテスト

入賞

信川 絵里さん (120回)
保谷 翔太くん (120回)

●二〇一一全国高校化学グランプリ

銀賞

稲生 宏泰くん (121回)

●二〇一二中国女子数学オリンピック

日本代表

頼 友梨恵さん (121回)

●第11回日本情報オリンピック

優秀賞

小関健太郎くん (121回)

●国際協力中学生・高校生

エッセイコンテスト(高校生の部)

入賞

鶴沢 和志くん (121回)

●ラグビー関東地区15人制合同チーム大会
第一位 東京都選抜 全国大会参加

主将 田口 航平くん (121回)
副将 水成 敬介くん (121回)

●第65回全日本学生音楽コンクール

第一位 全国大会バイオリン部門高校の部
土井 遙さん (122回)

コンクールに参加して

歴史あるこのコンクールへの挑戦は小学生の時からでしたが、一昨年の中学生の部の二位に続いて連続して賞を頂けました事はこの上ない喜びです。この日に弾いたシベリウスのバイオリン協奏曲は、昨年ブルガリア国立ソフィアフィルと共演した曲で、スケールの大きなこの曲を表現する事に新しい世界を体感することができました。今年は国際コンクールに挑戦する予定です。

(122回 土井 遥)



写真提供…毎日新聞社

全 37 団体 クラブ紹介



剣道部

2年3人、1年8人、男女比4:7の計11人ですが、卒業生が稽古に参加することも多く、いつも活気に溢れています。段の取得や大会など、各人が目標を持ち、切磋琢磨して練習しており、連敗中の院戦では、今年こそ勝とうと意気込んでいます。



野球部

僕たち野球部は、2年生5人、1年生11人という人数が少ない中、逆にそれを利用し、一昨年、昨年の夏季大会の結果である3回戦、4回戦進出というものを越えることを目標として、主にOBさんの指導の下日々の活動に取り組んでいます。

弓道部

弓道部は総勢35人の大きな部でありながら皆が結束した部です。平成23年度国体に120回生が進出した戦績もあります。正射必中をモットーとし、参段を最終的な目標に昇段審査を受けています。精神的にも肉体的にも大きく成長できる部活です。



陸上競技部

12人と比較的少ない部員数ですが、その分皆の仲が良いので、楽しく練習しています。また、顧問は陸上競技専門の先生で、毎回の確に指導していただいています。都大会出場を目標にしており、毎年出場を決めています。



ハンドボール部

男子10人、女子6人、マネ2人で明るい雰囲気の中、勝つことにこだわって活動しています。院戦もなく目立たない部活ですが、秋の大会では都ベスト16に入りました。過去の先輩達が果たした関東大会出場を目標に春の大会に向けて頑張っています。



サッカー部

選手25名マネージャー4名、毎週火・木・金曜の練習と日曜の試合で活動をしています。昨年は夏の選手権大会で都大会出場も果たしました。サッカーが上手になりたい人、試合に勝ちたい人など、一緒に熱くなれる仲間と日々練習に励んでいます。

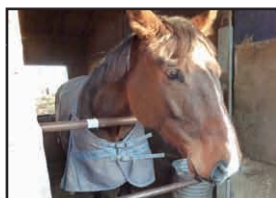
卓球部

卓球部は現在、部員が6名と少なめですががんばって活動しています。毎年学習院との総合定期戦に男子が参加していて、実質三年生の引退試合になっています。卓球部の今年の目標は、最近負け続けている院戦卓球で勝つことです。



ボート部

ボート部は附属で115年以上続く歴史ある部です。ボートは競技としてはマイナーですがそれ故にインターハイ出場なども果たしています。第84回開成レースでは現在の勝ち越しを維持できるよう、80回超の歴史を背負って全力で戦います。



馬術部

私たち馬術部は週1回土曜日に埼玉の三郷の乗馬クラブスリーフィールドという所で活動しています。現在部員は1年生4人2年生4人の計8人です。昨年の院戦では勝利しました。とても奥が深い競技ですがこれからも頑張っていきたいです。



硬式庭球部

男子・女子部ともに部員15名、男子は週4回女子は週3回のハードコートでの活動です。2011年度は男子都大会本選2回戦、女子都大会予選5回戦出場。6月の学習院との院戦(引退試合)での勝利を目標に男女部それぞれ日々活動しています。

バドミントン部

男女バドミントン部は、男子21名女子14名が在籍しており、男女一緒に活動しています。最近の戦績として、平成22年度・23年度において男子団体戦で都ベスト16になりました。男女共さらに良い結果を残すべく、日々練習に励んでいます。



バスケットボール部

男子は2年生4人、1年生7人。戦績は、10月に行なわれた新人戦で三回戦進出(ベスト64)。今後は、春大会、夏大会でベスト32以上に入ることを目標にしています。女子は2年生3人、1年生3人。目標は、ホーム開催の院戦で勝つことです。



ダンス部

部員13名で少ないですが、楽しく活動しています。主な活動内容は、院戦でのチア、8月の神戸での全国大会への参加、桐蔭祭での公演、3月のOGとのlink公演への参加です。今は、3月25日にあるlink公演に向けて練習しています。



バレーボール部

男女バレーボール部は短い練習時間の中での効率の良い実力向上を目標に日々活動しています。男女共に少ない人数ですが一人一人が個人として、チームの一員として精力的に取り組んでいます。部員同士仲が良くとても楽しい部です。

フットサル部

私達フットサル部は週三日、1・2年計10人ほどで活動しています。フットサルを楽しむことを前提に、去年は大会での上位入賞を目指し日頃の練習に取り組んできました。今年こそ1・2年一体となり大会で優勝できるチームにしていきたいです。



水泳部

水泳部は部員数24人、活動週4回の部活です。年間の目標は6月の院戦での勝利、8月に開催される十六校大会での入賞です。昨年の院戦では学習院に勝利を許してしまったので、今年は優勝杯奪回を目指して今は日々の練習に励んでいます。



女子蹴球部

現在1、2年各6人の12人で活動しています。練習は週4日で主にフットサルを行い、月1回の頻度で練習試合や大会へ参加しています。今年2月に行われた都大会は、予選敗退で終わってしまいましたが、悔しさをバネに次に向けて頑張ります。



柔道部

男子5名、女子3名です。普段の練習に加え合宿や寒稽古があり、先生とOB・OGの方々に指導していただいています。昨年は男女とも目標の1つである都大会に出場することができました。今年はさらに上、そして院戦の連覇を目指しています。



アカペラ同好会

アカペラ同好会はアカペラの持つ美しさを楽しむ会です。部員 5 名がひとつのグループを組み、主に桐陰祭での発表に向けて活動をしています。仲間の絆がそのままハーモニーにあらわれるのが魅力のひとつです。

軽音同好会

軽音同好会は設立されてからまだ日が浅いですが、会の中でそれぞれがバンドを組んで桐陰祭や校外でのライブ活動にむけて練習を行っています。厳しい活動環境のなか、自由に各々が個性を発揮できる場です。



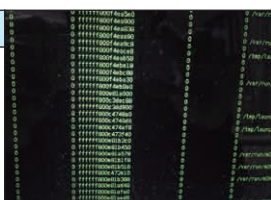
数学研究会

数学研究会は「高校では教えてもらえない面白い数学」をテーマに活動しています。取扱う範囲が大学の内容だったり、一ひねりある中学程度の問題だったりと区々です。人数は 8 人で、オリジナルの講義や問題の出題・解説をベースに活動しています。



TCA

TCA は 1981 年に設立された歴史ある同好会です。部員は少ないですが、これまでに東京工業大学と大阪大学が主催するスーパーコンピューティングコンテストや全国高等学校パソコンコンクールプログラミング部門などの大会に出場しています。



演劇同好会

演劇同好会では現在 11 名の部員で毎週木金に活動しています。年二回の定期公演を目標に演技が好きな子、裏方として作るのが好きな子、などさまざまです。ゆる〜くかつメリハリの持った仲間と、納得のいくまで舞台作りに取り組んでいます。



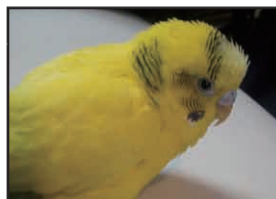
ラグビー同好会

ラグビー同好会は 121 回生が一昨年創部しました。月日を重ねるごとに次の段階へ進み、公式戦出場、勝利から 1 月には全国出場経験のある高校と互角の勝負を演じました。しんどいスポーツですが、仲間との信頼や責任の重さを学べます。



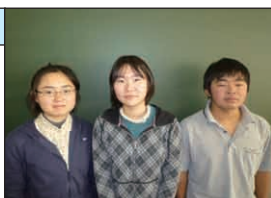
文芸愛好会

文芸愛好会は、現在 5 人で活動しています。主な活動内容はもちろん書くことですが、お喋りの多い楽しい部活でもあります。まだまだこれからの未熟な部活ですが、どんどん新しい企画を立ち上げて充実した活動にしていきたいと考えています。



グローバルウォーニング

Global Warning 研究会は、国内外の社会問題について話し合い、部としての意見をまとめることを目標に活動しています。昨年は、東日本大震災への対応や、同時多発テロを発端とするアメリカとアルカイダの対立を解消する手段などを考えました。



生物同好会

生物部が活動を開始して 2 年が経過した。イモリ・カメ・プラナリアなどを飼育し、観察・実験を行っている。小さな生き物の命を通して、人間をはじめとするすべての生命への興味と理解を深めることが、活動の目的である。現在所属部員 9 名。



ジャグリング部

ジャグリング部には現在 10 人が所属しております。活動内容は練習が中心で、桐陰祭での発表の成功を当面の目標に掲げています。冬場はどうしても人数が減ってしまっていますが、その他の時期は部内の雰囲気もよく、楽しく活動しています。



オーケストラ部

オーケストラとしては小規模の 29 名で活動している我が部の特徴は、曲ごとの指揮者を部員の中から選出する点です。毎年春と秋にある定期公演に向けて卒業生のご指導を頂きながら練習しています。また、アンサンブルを楽しむ機会も多いです。



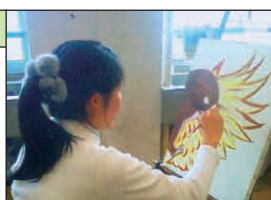
化学部

化学部では、普段は各自で好きな研究テーマを決めて活動を行っています。また昨年の夏休みには海城高校の化学部と交流をしました。今年も引き続き交流会を開催する予定です。部員は 10 人ほどですが、男女ともに化学の不思議を楽しめます。



美術部

美術部の主な活動は年二回のコンクールと桐陰祭です。活動日が決まっているわけではなく各自の都合に合わせて活動しているので、兼部をしている人も多いです。共同作品を作ったりクリスマスパーティをしたりと、少人数ながら仲の良い部活です。



英字新聞部

英字新聞部では英語で記事を書きネイティブ講師に添削してもらい、月一回英字新聞を発行します。今年、去年と都の新聞コンクールで奨励賞をいただいています。部員は 9 名ですが、英語で文章を書く楽しさを体感できます。



茶道部

現在は男女 18 名で活動しています。学校での活動に加え、入門の許可を得て学校外の先生のお宅で稽古をさせて頂いており、他に茶会を催したり学校外の茶会に参加したり等の体験を通して茶道の奥深さを学んでおります。写真は初釜式でのものです。



ESS

私達は活動人数 4 人と、とても小規模で活動しています。週二回、昼休みに図書館の前で英語で話したり英語の本を朗読したりしています。アットホームな楽しい雰囲気部の部活を目指しています。



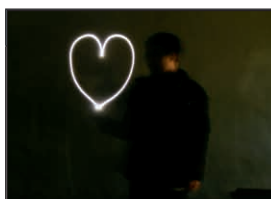
附属クイズ研究部

競技での実力に留まらない、人生を豊かにする教養と洞察を主眼に男女 11 人で活動しています。クイズ番組の高校生大会をはじめ、全国高校生金融経済クイズ選手権や、関東圏の中高クイズ研究部会が主催する例会等でも上位成績を収めています。



映画研究同好会

2010 年に設立された同好会で、現在は 5 人で活動しています。主な活動内容は写真撮影とオリジナル映画作成で、桐陰祭で発表を行います。沖縄修学旅行でフォトコンテストを開催するなど、イベントにも力を入れています。



イラスト漫画同好会

活動時間：月・火の放課後
場 所：1-4
内 容：個々での作品創作、季節誌発行
兼部率が高く活動中もアットホームな雰囲気ですが互いに刺激し合いよりよい作品を発信することを目標に頑張っています。



運動部

19

文化部

7

同好会

11

国際交流

APYLS

私は昨年七月十七〜二十六日にシンガポールで開催された Hwa Chong Asia-Pacific Young Leaders Summit 2011 に本校代表として、頼友梨恵さん、木村元氣君、引率の馬場幸雄先生と共に参加しました。サミットには、アジア各国の他、米、英、豪の計 12ヶ国の高校生約 80 人が参加し、十日の寮生活を送りました。

Towards Globality: Renegotiating Communities が今回のサミットのテーマで、Summit Dialogue では、エネルギー問題、教育、帝王学についての有識者によるセミナーを受けました。また、Student Dialogue では各国による移民、文化などのテーマ別のプレゼン、少人数でのグループディスカッションなどを行いました。プレゼン発表における日本のテーマは Natural Disasters & Nuclear Energy で、東日本大震災やエネルギー問題に関する発表をし、見事 Outstanding Presentation

Award を獲得しました。これらは参加者の積極的な発言、質問により、国の違いを超えた相互理解が深まるとても有意義なものでした。

シンガポールの政府機関、企業の訪問も行われ、放送局では、サミット参加者によるファッションショーの撮影やラジオ番組の収録を体験しました。さらに、大統領官邸への表敬訪問では、大統領との対話の機会もありました。

私は、サミットで「友情の輪を広げる」という考えの下、積極的に多くの人とふれあうことに努めました。その結果、国や文化を越えた人とのつながりも強いものとなり、最終日に別れる時には泣き、別れを惜しむまでの深い絆ができました。

この経験が、今後の人生において大きな土台になると私は確信しています。

(121回 阿部朱伽羅)



大統領官邸 (Istana) にて
～ Nathan 前大統領と本校代表～

HWA CHONG 校からの 短期留学

十一月二十七日、四名の女子生徒が短期留学に来ました。今回で六回目、附属の通常授業に出る他、ホスト生徒と一緒に部活や茶道部との交流など、例年通りの企画がもたれました。また附属中学の生徒約 20 名とのミーティングも高校地理教室で行われました。

通常授業でクラスの一員としての留学生の学校生活は、附属生となら変わりません。全員がシンガポールの語学センターで第三外国語として日本語を学んでいます。シンガポールでは成績優秀の生徒には第三外国語を学ぶ権利が与えられ、学校が終わったあと、政府の設置した語学センターでそれぞれ選択した言語を学ぶことができます。

ドイツ語やフランス語と並び日本語も選択言語の一つで、生徒の関心は高いようです。

初日の全校集会では、リム・シエリルさんが日本語で挨拶し、最



附属中学生徒とのミーティング

後に「ご静聴ありがとうございます」と丁寧につながスピーチには、附属生の驚きの歓声と大きな拍手が起きました。

ホームステイを通じての家庭交流、クラスでの、そして部活での交流と、さまざまな体験をしました。(鎌倉芳信)

Hwa Chong 校への 短期留学



三月二十三日に高校四名、中学二名の計六名が、Hwa Chong 校への一二日間の短期留学へ出発した。朝の集会では、一二回の下澤利香さんが全校生徒への挨拶を英語で行った。英語での授業やホストファミリーと共に過ごすシンガポールでの生活は、新鮮で刺激的であり、異文化理解と自らを知る機会となった。

空港での別れの際の涙に、短い期間にしっかりと結ばれた絆を感じた。この経験は生徒たちの大きな財産になることが確信できるプログラムであった。

(大堀健吾)



二〇一一年八月十三日(土)二十一日(日)、第八回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムが北京第四中学校で開かれました。座学やスポーツ活動を通してオリンピックズムを学び、交流を深め、世界平和に貢献する人材を育てる目的で二年に一度開かれるもので、アジア初開催の今回は、日本から本校が招待され、山西優香さん(120回生)と星野慧さん(現三年121回生)が参加しました。

世界各国から集まった二七名の高校生が「クーベルタン賞」を目指して、オリンピック知識テスト、(二)スポーツ競技(陸上競技、水泳)、(三)社会貢献活動(事前に実施)、(四)芸術パフォーマンス、(五)グループ・ディスカッションに取り組みます。寮での生活、観光や交流会などを通して世界中の高校生と触れ合った星野慧さんは、「これまでは日本しか見ていなかったけど、世界の人と交流して考え方や視野が広がり、すごく刺激になりました。スポーツを通じて世界中の人がつながることが感じられてとてもよかったです。」と感想を述べました。女子のクロスカントリーで一位となり、閉会セレ



オリンピック会場「鳥の巣」の前で

治五郎は、アジア初の国際オリンピック委員会委員でもあり、その思想はオリンピックズムそのものであると言えるでしょう。筑波大学は二〇一〇年度よりオリンピック教育への取り組みを開始し、附属学校と連携しながら研究・実践を進めています。これからのオリンピック教育の行方にご注目ください。

(中塚義実)



中国では日本の高校に当たる学校を中学といいます。今年も北京市の中学から男女20名ずつの生徒が附属高校で一日体験授業をしました。

各クラスから選ばれた数人のファシリテーター(世話役)の生徒が、会議室で名前の書かれたプラカードを示して中国

の生徒と対面。最初は対面の挨拶。「ニイハオ」と問いかけて「こんにちは」と答えられたり、英語を使ったりと、いろいろなやりとりをし各教室での授業に入りました。

授業の形態は、北京でも日本とほぼ同じスタイル。一教室の人数もそれほど変わりません。国語の授業はともかく、数学や理科、英語の内容はある程度理解できたようです。が、北京の中学生にとっては、附属での授業の雰囲気浸れたことが何よりも新鮮な体験なようでした。

北京についての学校生活は、登校時も含めて全員が制服を着るきまりです。それも日本の体育ジャージというスタイルの制服です。附属高校で女子生徒が思い思いの素敵な服装で過ごしている姿を見て殊に北京の女子生徒はうらやましくも思えたようです。

(鎌倉芳信)

中国大使館で行われた歓迎会
松本外相(当時)と

この交流事業は「イオン一%クラブ」が主催し、北京市政府の後援で行われているもので、本校は二年前から参加しています。昨年から東京学芸大学附属高校も加わり、合計で39名の生徒が派遣されました。本校からは、男子9名、女子10名が参加しました。

十月九日から十六日までの八日間で、北京市政府や中華人民共和国外交部への表敬訪問、日本大使館でのレセプション、北京師範大学第二附属中学・月壇中学での授業参観、全寮制の匯佳学校では体験授業と交流会だけでなく、学生寮に宿泊しました。このほかにも、世界遺産や農業研究機関の見学、中国戯曲学院での京劇体験、一泊だけでしたが現地の高校生の家庭へのホームステイなど、多様な活動を行ってきました。

(大澤幾子)

学校評価・自己点検の結果（概要）

平成 23 年度の教育計画に基づき、年度末に 40 項目にわたって自己点検、評価を行った。その結果について、評価の高かったもの、低かったもの、それぞれ 10 項目を示し（下記）、評価の傾向を記す。

○ 高く評価された活動内容

中期計画として掲げた 3 つの拠点構想（先導的教育拠点・教師教育拠点・国際教育拠点）に関連する活動については、昨年同様高く評価された。下記 10 項目には入らなかったものの安全管理に関する評価が昨年より大幅に高くなったのは、震災以降の防災対策によるものと思われる。

○ 低い評価にとどまった活動内容

昨年と同様に教育環境の整備に強い改善要望がよせられた。予算の問題もあるので簡単ではないが、保護者の協力を得ながら施設、設備の充実をはかりたい。大学や地域との連携なども今後の課題である。

○ 外部評価

自己点検評価とは別に、昨年 12 月に第三者による評価も行った。それによると、「中期計画」や「学校運営」など学校における日常的教育活動については「おおむね良好」との評価を得た。特に国際教育への取り組みに対しては高い評価を得た。一方、施設、設備については、自己点検評価と同様、厳しい評価となった。

評価が高かった項目

	分 野	具 体 的 目 標
1	研修・資質向上の取り組み	授業研究をつみ重ね、よりよい授業をめざして取り組むことが出来たか
2	筑波大学の附属学校として	教科の特性を生かし、バランスの良い評価をすることが出来たか
3	筑波大学の附属学校として	質の高い授業開発が出来たか
4	教育課程・学習指導	教員養成と教師教育への協力が出来たか
5	教育課程・学習指導	計画的な教育課程の実施が出来たか
6	研修・資質向上の取り組み	校内における重要な課題について研修の機会を持つことが出来たか
7	情報提供	ホームページの充実をはかることが出来たか
8	筑波大学の附属学校として	国際交流と国際貢献をはかることが出来たか
9	生徒指導	全教員で生徒の問題行動を承知し、把握することができたか
10	研修・資質向上の取り組み	前年度の反省内容を活かし、より有意義な研修ができるようになったか

評価が低かった項目

	分 野	具体的目標
1	教育環境整備	多様な学習内容、多様な要望を満たす施設、設備の充実がはかれたか
2	教育環境整備	生徒とのコミュニケーションを可能にする施設、設備の整備が出来たか
3	生徒指導	文京区や私立国立中高連絡協議会など外部との連携活用が出来たか
4	教育環境整備	施設設備が教育的に有効かつ効率的に使われることが出来たか
5	生徒指導	ネットにおけるいじめや誹謗中傷を予防することが出来たか
6	保護者・地域住民等との連携	外部者との連携協力を行えたか
7	筑波大学の附属学校として	大学との連携がはかれたか
8	進路指導	生徒にとって必要な進路情報を的確に収集し、効果的に提供することが出来たか
9	教育課程・学習指導	教科間の均衡を配慮した持ち時間配当を行えたか
10	保護者・地域住民等との連携	学校評議員会の充実をはかれたか